



月刊 織本

GEKKAN ORIMOTO

1

2014年1月1日 Vol.233
 発行 医療法人財団 織本病院
 印刷 〒204-0002
 東京都清瀬市旭が丘 1-261
 TEL 042-491-2121
 URL <http://www.orimoto.or.jp/>
 発行人 高木 由利



チーム 織本

理事長・院長 高木 由利

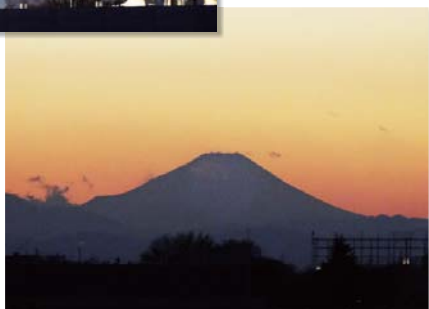


あけましておめでとうございます。今年は暖かい年明けになりました。元旦の朝と夕方、病院の4階から富士山の写真を撮ることができました。



2014年 元旦
朝の富士山

夕方の富士山



* * *

1月4日のお昼休みに糖尿病の勉強会がありました。年明けの第1日目から気合が入っているのです。講師は当院で土曜日に糖尿病専門外来を担当されてい

る佐藤潤一先生です。あらゆる職種のスタッフ達に向けて糖尿病を語ることがどんなに難しいか私はよく分かっていましたが、それでも私は先生に講義を依頼しました。私の外来には現在糖尿病、そして糖尿病性腎症と診断されている方が80名近く通院されています。そのために自分の学んできたこと、そして自分の考え方が正しいかどうかを先生の講義を通して確認したかったのです。

先生は約1時間、丁寧に分かりやすく、正しく糖尿病の病態生理から診断法、治療方法を語って下さいました。そしてその中で、糖尿病の治療の基本は食事であるとはっきりおっしゃったのです。腎不全治療と全く同じです。更に、高血圧、脂質異常症を含む全ての慢性疾患の治療の基本が食事であることも再確認しました。

昨年12月、“第9回 レストランテ・ユリ”、1年に1度だけオープンする腎不全食のレストランを開きました。この会を行うためのメニュー作成や食材の特性を探りながら、自分の行っていることがどんなに大切なことかを噛みしめてきたのです。そして昨年末には、この“レストランテ・ユリ”そして織本病院の腎不全食に共感して下さる医師を始めとする医療従事

者、更には他業界の方々との熱い交流をさせて頂きました。私にとっては、身の引き締まるような年越しでした。

佐藤潤一先生はいみじくも講義の最後に『糖尿病治療を確立させるために織本病院のあらゆる職種のスタッフ達が協力し、“チーム織本”を作ることが今年の私のビジョンです。』とおっしゃった言葉に私は深く感動しました。“チーム織本”は織本病院のスタッフの枠を越えて、この食事療法を基本とする真の医療に賛同して下さる、あらゆる方々が作り出す素晴らしいチームに発展していくことを私は望んでいます。

佐藤潤一先生、お正月明けからダイナミックな講義をありがとうございました。



新年あけましておめでとうございます。

時間の経過と共に私達を取り巻く環境も変わり、皆様それぞれの思いで新年をお迎えのことと思います。



専務理事・事務部長
箕輪 比呂志

＊ ＊ ＊
 昨年の当院での悲しい出来事に、セラピー犬であったヨウちゃんとお別れがありました。急逝した後、ヨウちゃんが多くの患者さんの力になっていたとの話を聞きました。実際、人は犬に触れることで血圧が下がったり、気持ちが和らいだり、リラックスしたり、犬の仕草を見ることで自然に笑顔になったりする効果が期待できるそうです。

実は、熱帯魚や金魚を水草が生い茂る水槽で飼育することで同じような効果が実現できると聞き、ヨウちゃんに

成り代わることはできませんが、熱帯魚の飼育を考えました。そして、ぼんやりと眺めているだけで癒されると言われる熱帯魚の水槽を、昨年12月初めに施設管理課の職員が中心となって1階外来エリアに設置しました。これからは泳ぐ観賞魚、揺れる水草が自然界を感じさせ、リラックス効果をもたらしてくれることを願っています。

病院の診療機能の充実はもちろんのこと、今年も院内を明るく清潔に保ち、来院された方々に安らぎと自然を感じて頂ける環境を提供したいと思っています。



新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆さまのおかげで織本病院も無事に新しい年を迎えることができました。

* * *

昨年は緩やかながら景気回復の兆しや東京オリンピックの招致決定など明るい話題も多く、当院でも多くの新しいスタッフを迎えることができ、良い1年の締めくくりができたと思います。

今年は消費税の増税、事実上の診療報酬引き下げ、一部の患者さまでは医療費の自己負担増など医療を取り巻く環境はさらに厳しくなっています。また院内でも取り組むべき数多くの課題があります。

開院60周年の時にも申し上げましたが、この先100年後、200年後も、この清



瀬の地で織本病院が地域医療の中心的存在として貢献し続けていきたいと願っています。そのためには課題を一つ一つ解決して病院組織をより成熟させていくことや、地域医療連携の強化などを進めていきたいと考えています。より良い病院を目指し、職員一丸となって努力してまいります。皆さま、これからも織本病院を愛し、温かなご支援を頂きますようお願い申し上げます。



副院長
藤木 達雄



看護部長
田中 優子

明けましておめでとうございます。

看護部 新任の田中と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

* * *

正月の川越街道など車は少なく感じ、スイスイ走れるのですが、あの状態は交通量が2割減っただけなのだそうです。2割という数字のマジックを実感します。2割違うと大きな変化がありますが、少し抵抗感が出てしまいます。しかし、1割増しは気楽に考えられるので長続きもするのです。私が続けているものの中に、休日ウォーキング（8km～12km）、毎日朝と夕の真向法（股関節のストレッチの様なもので5分程度）、読書等があります。ずっと元気で若い人とお仕事をしたいという願いがあるのです。私は患者様やスタッフと話しをすることも大好きです。会話の中で相手が自分自身の良い面に気付いて、何か1割増しを考えて実行して下さることもあるから

です。人それぞれに「何か」は違いますが、善き思いが発生してくると善のスパイラルのようなものが、ゆっくり現れてきます。個々が成長する過程にも幸福感はありますが、成長を見る喜びもあるので、相互に良い関係なのです。

織本病院に来てまだ日は浅いのですが、当院には他の病院に見られない良いところが沢山あるように感じます。それはイベントが多いことや、学習会やミーティングなどが挙げられます。これらに参加すると院長の由利先生が「光に満ちた病院・愛のある病院」を目指しておられることを感じます。また対象が全ての人々であり、個々の成長を見守っておられることも感じます。私も心を由利先生に合わせて患者様一人ひとり、職員一人ひとりが明るく活き活きと輝けるよう努力させて頂きたいと思います。

今年、新たな1割増しの自分自身を目指したいと思います。



第151回 腎疾患ゼミナール新春特別講演会

よく生き よく笑い
よき死と出会う

講師：アルフオンス・デーケン先生

1932年8月3日ドイツ生まれ。1959年来日。1973年フォーダム大学大学院（ニューヨーク）で哲学博士の学位を取得。以後30年にわたり、上智大学で「死の哲学」などの講義を担当。現在、上智大学名誉教授。「東京・生と死を考える会」名誉会長。「生と死を考える会全国協議会」名誉会長。1991年全米死生学財団賞、第39回菊池寛賞、1998年ドイツ功労十字勲章、1999年第15回東京都文化賞などを受賞。

主要著書：『よく生き よく笑い よき死と出会う』（新潮社）、『新版 死とどう向き合うか』（NHK出版）、『ユーモアは老いと死の妙薬』（講談社）、『心を癒す言葉の花束』（集英社新書）、他多数。

2014年 1月23日(木) 12:30 開場
13:00 開演

オリモトホール(織本病院 4F) 入場無料

腎疾患ゼミナールからのお知らせ

2月からは通常の腎疾患ゼミナールを開催します。
皆様のご参加をお待ちしております。



— 2014年 前期日程 —

【ワンポイントアドバイス】

- 第152回 2月27日(木) 看護部
- 第153回 3月20日(木) 栄養科(レシピ・試食付き)
- 第154回 4月17日(木) リハビリテーションセンター
- 第155回 5月15日(木) 栄養科(レシピ・試食付き)

糖尿病教室のご案内

第41回 2月18日(火)

テーマ『糖尿病とは?』

講師：看護師

会場：第1会議室(織本病院4F)
時間：午後1:00～2:00(開場12:45)
参加費：無料
予約：不要(直接会場へお越しください)